

大学の世界展開力強化事業 構想概要 東京大学

【構想の名称】(タイプA-1)

公共政策・国際関係分野におけるBESETOダブル・ディグリー・マスタープログラム

【構想の概要】

北京大学、ソウル大学校、東京大学の三大学(BESETO)の間でコンソーシアムを形成し、公共政策・国際関係分野における大学院レベルでの日中韓交流で交換留学または及びダブル・ディグリー(DD)を導入する。原則として全ての参加学生が3か国で英語を使用言語とする教育プログラムを体験するシステムである。

■ プログラムの目的・養成する人材像

東アジアの公共政策・国際関係分野における最高水準の学位プログラムの創成

日中韓トップレベルの三大学が協力し、交換留学による単位互換、さらに進んでダブル・ディグリーの学位プログラムを作り出すことにより、三大学の世界競争力を強化し、多文化的な視点を持つ次世代のアジアのリーダーなどの、優秀なグローバル人材を育成する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成

単位の相互認定、成績管理、学位授与に至るプロセス

単位の相互認定については各大学における他の大学院で取得した単位の認定の規定及び手続きに従って行う。単位互換のプロセスや成績管理、履修状況管理などについても3校で協議の上、ガイドラインなどにまとめていく。

- ①相互で単位あたりの授業時間(週あたりの時間数×授業回数)をもとに換算方法をルール化
- ②各大学の修了要件を比較
- ③コアコースの部分については、単位の読み替え先として対応する科目を事前に協議の上一覧にまとめる
- ④学生の一般的な履修モデルを提示する

アカデミックカレンダーの違いを利用した集中講義、言語教育とインターンシップ

ソウル大学校は3月始業、東京大学は4月及び10月始業、北京大学は9月始業というアカデミックカレンダーの違いを有効に活用し、集中講義の場で三大学の参加学生が一堂に会する機会を検討する。また、講義は原則すべて英語で行うが、各国の言語の初級レベルを学ぶ機会も提供する。留学生の希望者には、企業や国際機関等でのインターンシップが行えるよう受入先の機関を開拓する。

人材育成ニーズに合った教育内容

課題を適切に認識しリーダーシップを発揮できる政策担当者の養成に不可欠な、国際的視野で異なる文化や社会を複眼的に捉え理解するという力や国際的なコミュニケーションの手段として高度に英語能力を高める教育を行う。

〈留学生日光一泊研修旅行2011.11〉



■ 教育内容の可視化・成果の普及

シラバスの公開、学生アンケートなどの実施、合同委員会の設置

学生の履修方法などについては教職員に相談できるサポート体制を整え、参加学生に無理のないように考慮する。修了要件やシラバスは、印刷物またはホームページなどで公開され、透明性、客観性を維持する。各科目の終了後には学生アンケートを行い、ファカルティ・ディベロップメントに役立てる。また、三大学の連携による合同の委員会を立ち上げ、プロジェクトの運営にあたる。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

日本人学生の派遣のための環境整備

交換留学・ダブル・ディグリープログラムの担当スタッフが募集時から留学中、帰国後まで一貫して相談に応じる体制をとっており、相談の内容によって教員や先方大学とも連携をとってサポートする。留学前の学生には、単位の履修、認定の手続き等について説明を行う。また帰国した学生と派遣前の学生との懇談会などを企画し学生同士での情報交換を促す。

外国人学生の受入れのための環境整備

英語で対応可能なスタッフにより、学術面、渡航準備、渡日後のカウンセリング、交換留学やダブル・ディグリーの単位認定に関する相談など、きめ細かなサービスを提供する。

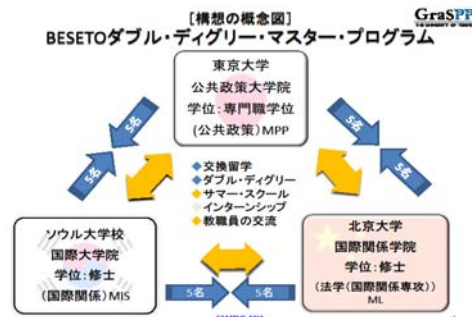
■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

平成24年に派遣を開始し、交換留学を半年ずつ2回行う。平成25年よりダブル・ディグリーもあわせ、延べ71名(実数は約半数)の派遣を行う。

○ 外国人留学生の受入れ

平成24年に受入を開始し、交換留学を半年ずつ2回行う。平成25年よりダブル・ディグリーもあわせ、延べ76名(実数は約半数)の受入を行う。



	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣 (延べ人数)	0	5	15	22	29
学生の受入 (延べ人数)	0	10	20	22	24

大学の世界展開力強化事業 取組実績 東京大学

【構想の名称】(タイプAー I CAMPUS Asia Pilot Program)

公共政策・国際関係分野におけるBESETOダブル・ディグリー・マスタープログラム

【プログラムの目的・養成する人材像】

東アジアの公共政策・国際関係分野における最高水準の英語による学位プログラムを創成することにより大学の世界競争力を強化し、多文化的な視点を持つ次世代のアジアのリーダーなどの優秀なグローバル人材を育成する。

【構想の概要】

北京大学、ソウル大学校、東京大学三大学(BESETO)の間でコンソーシアムを形成し、公共政策・国際関係分野における大学院レベルでの日中韓交流で英語での教育による交換留学または/及びダブル・ディグリー(DD)を導入する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

単位の相互認定、成績管理、学位授与に至るプロセス

①相互で単位あたりの授業時間をもとに換算方法をルール化、②各大学の修了要件を比較、③コアコースの部分については、単位の読み替え先として対応する科目を事前に協議の上一覧にまとめる、④学生の一般的な履修モデルを提示する。

アカデミックカレンダーの違いを利用した集中講義、言語教育とインターンシップ

集中講義形式のサマースクールやそれぞれの言語を学習する機会の提供、インターンシップ先の紹介などを行う。

人材育成ニーズに合った教育内容

課題を適切に認識しリーダーシップを発揮できる政策担当者の養成に不可欠な、国際的視野で異なる文化や社会を複眼的に捉え理解するという力や国際的なコミュニケーションの手段として高度に英語能力を高める教育を行う。



■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

キャンパスアジアワークショップ(ソウル大学校)



学生交流協定(覚書)の締結

2011年、東京大学、北京大学、ソウル大学校の連名による学生交流の覚書を締結。2012年、キャンパスアジア学生ワークショップを開催し、ソウル大学校、北京大学での学生交流を行った。

キャンパスアジアコースの開設準備：公共政策大学院

ソウル大、北京大で修得した単位の振替を修了要件に入れた「キャンパスアジアコース」を平成25年4月に開設予定、平成24年に約10名の募集を行う。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

平成24年に派遣を開始し、交換留学を半年ずつ2回行う。平成25年よりダブル・ディグリーもあわせ、延べ71名(実数は約半数)の派遣を行う。

○ 外国人留学生の受入れ

平成24年に受入を開始し、交換留学を半年ずつ2回行う。平成25年よりダブル・ディグリーもあわせ、延べ74名(実数は約半数)の受入を行う。交換留学は2学期間で2カ国、ダブル・ディグリーは3学期間で2カ国の派遣、受入となる。

	H23	H24	H25	H26	H27
日本への受入	0	C5, K3	C10, K10	C11, K11	C12, K12
中国への受入	0	J3, K5	J7, K10	J11, K10	J14, K12
韓国への受入	0	J4, C5	J7, C10	J11, C10	J14, C12

注)H23は実績、H24以降は計画。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

日本人学生の派遣のための環境整備

交換留学・ダブル・ディグリープログラムの担当スタッフが募集時から留学中、帰国後まで一貫して教員や先方大学とも連携をとってサポートする。留学前の学生には、単位の履修、認定の手続き等について説明を行う。また帰国した学生と派遣前の学生との懇談会などを企画し学生同士での情報交換を促す。

外国人学生の受入れのための環境整備

英語で対応可能なスタッフにより、学術面、渡航準備、渡日後のカウンセリング、交換留学やダブル・ディグリーの単位認定に関する相談など、きめ細かなサービスを提供する。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

シラバスの公開、学生アンケートなどの実施、合同委員会の設置

学生の履修方法などについては教職員に相談できるサポート体制を整える。修了要件やシラバスは、印刷物またはホームページなどで公開され、透明性、客観性を維持する。各科目の終了後には学生アンケートを行い、ファカルティ・ディベロップメントに役立てる。三大学の連携による合同の委員会がプロジェクトの運営にあたる。

大学の世界展開力強化事業 取組概要 東京大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプA-I CAMPUS Asia Pilot Program))

公共政策・国際関係分野におけるBESETOダブル・ディグリー・マスタープログラム

【プログラムの目的・養成する人材像】

東アジアの公共政策・国際関係分野における最高水準の英語による学位プログラムを創成することにより大学の世界競争力を強化し、多文化的な視点を持つ次世代のアジアのリーダーなどの優秀なグローバル人材を育成する。

【構想の概要】

北京大学、ソウル大学校、東京大学三大学(BESETO)の間でコンソーシアムを形成し、公共政策・国際関係分野における大学院レベルでの日中韓交流で英語での教育による交換留学または及びダブル・ディグリー(DD)を導入する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

〈ソウル大でのサマースクール2012.8〉

単位の相互認定、成績管理、学位授与に至るプロセス

①相互で単位あたりの授業時間をもとに換算方法をルール化、②各大学の修了要件を比較、③コアコースの部分については、単位の読み替え先として対応する科目を事前に協議の上一覧にまとめる、④学生の一般的な履修モデルを提示する。

アカデミックカレンダーの違いを利用した集中講義、言語教育とインターンシップ

集中講義形式のサマースクールやそれぞれの言語を学習する機会の提供、インターンシップ先の紹介などを行う。

人材育成ニーズに合った教育内容

課題を適切に認識しリーダーシップを発揮できる政策担当者の養成に不可欠な、国際的視野で異なる文化や社会を複眼的に捉え理解するという力や国際的なコミュニケーションの手段として高度に英語能力を高める教育を行う。



■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

〈北京大学の守衛さんと、留学中の学生達〉



○ ダブル・ディグリー覚書の締結、キャンパスアジアコースの入試を実施

2012年8月にソウル大学校と、2013年3月に北京大学との間でそれぞれ、ダブル・ディグリーに関する覚書を締結し、キャンパスアジアコースの入試を実施した。

○ 交換留学の開始、サマースクールの実施

2012年冬学期より日中韓三カ国での交換留学を開始した。8月にはソウル大学校にてサマースクールを実施した。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

キャンパスアジアコースに在籍する学生を中心に派遣する。①交換留学(留学期間2校で1年)またはDD(留学期間2校で1年半)、②DDでは北京大とソウル大のどちらかを選択した上で人数調整を行いながら派遣時期を決定する。毎年各校に5名ずつ派遣予定。数字は実人数(サマースクール含む)

○ 外国人留学生の受入れ

BESETOで連携しながら受入学生の選考を行う。DDでは1年間、交換留学では1学期間の受入を行うため、東大にDDを希望する学生が増えると受け入れ人数も増える。数字は実人数(交換留学、DD、サマースクール含む)

	H23	H24	H25	H26	H27
日本(J)での受入	C0 K0	C5 K3	C10 K10	C11 K11	C12 K12
中国(C)での受入	J11 K0	J3 K5	J7 K5	J11 K5	J14 K5
韓国(K)での受入	C0 J11	C10 J18	C5 J8	C5 J11	C5 J15

注)H23・H24は実績、H25以降は計画。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 時間割に合わせた日本語コースの提供、インターンシップの機会の提供

通常授業の時間割と重ならないように独自の日本語授業を提供する。またインターンシップの機会を多く斡旋するため受入企業・機関の開拓を行う。

○ 受入学生への奨学金、派遣学生への渡航費を補助。Webによる情報発信。

受入学生には月額8万円の奨学金と宿舍の無償提供を行う。サマースクールをふくめ、海外派遣する学生の航空運賃を学生支援経費から補助する。また、キャンパスアジアのウェブサイト構築し、情報発信を行う。

<http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/campusasia/index.html>

■ 教育内容の可視化・成果の普及

シラバスの公開、学生アンケートなどの実施、合同委員会の設置

学生の履修方法などについては教職員に相談できるサポート体制を整える。修了要件やシラバスは、印刷物またはホームページなどで公開され、透明性、客観性を維持する。各科目の終了後には学生アンケートを行い、ファカルティ・ディベロップメントに役立てる。三大学の連携による合同の委員会がプロジェクトの運営にあたる。

大学の世界展開力強化事業 取組概要 東京大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプA-I CAMPUS Asia Pilot Program))

公共政策・国際関係分野におけるBESETOダブル・ディグリー・マスタープログラム

【プログラムの目的・養成する人材像】

東アジアの公共政策・国際関係分野における最高水準の英語による学位プログラムを創成することにより大学の世界競争力を強化し、多文化的な視点を持つ次世代のアジアのリーダーなどの優秀なグローバル人材を育成する。

【構想の概要】

北京大学、ソウル大学校、東京大学三大学(BESETO)の間でコンソーシアムを形成し、公共政策・国際関係分野における大学院レベルでの日中韓交流で英語での教育による交換留学または及びダブル・ディグリー(DD)を導入する。

〈東京でのサマースクール2013.8〉

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

単位の相互認定、成績管理、学位授与に至るプロセス

①相互で単位あたりの授業時間をもとに換算方法をルール化、②各大学の修了要件を比較、③コアコースの部分については、単位の読み替え先として対応する科目を事前に協議の上一覧にまとめる、④学生の一般的な履修モデルを提示する。

アカデミックカレンダーの違いを利用した集中講義、言語教育とインターンシップ

集中講義形式のサマースクールやそれぞれの言語を学習する機会の提供、インターンシップ先の紹介などを行う。

人材育成ニーズに合った教育内容

課題を適切に認識しリーダーシップを発揮できる政策担当者の養成に不可欠な、国際的視野で異なる文化や社会を複眼的に捉え理解するという力や国際的なコミュニケーションの手段として高度に英語能力を高める教育を行う。



■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

〈八王子セミナーハウスにて〉

○ キャンパスアジアコース1期生の入学とダブル・ディグリー受入開始

2013年4月、東京、ソウル、北京の3大学での単位を必須とする「キャンパスアジアコース」を新設した。ソウル大学校より5名のダブル・ディグリー生を受け入れた。

○ 東京でサマースクールを実施。学生の発案による冬合宿を実施。

2013年8月東京大学で3校合同のサマースクールを実施した。2014年1月には学生の発案によるCAMPUS Asia Trilateral Conference 2014—CAMPUS Asia Initiative for the Better Future of East Asia—を開催した。[Hachioji Agreement: PDF\(51.7KB\)](#)



■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

キャンパスアジアコースに在籍する学生を中心に派遣する。①交換留学(留学期間2校で1年)またはDD(留学期間2校で1年半)、②DDでは北京大とソウル大のどちらかを選択した上で人数調整を行いながら派遣時期を決定する。毎年各校に5名ずつ派遣予定。数字は実人数(サマースクール含む)

○ 外国人留学生の受入れ

BESETOで連携しながら受入学生の選考を行う。DDでは1年間、交換留学では1学期間の受入を行うため、東大にDDを希望する学生が増えると受け入れ人数も増える。数字は実人数(交換留学、DD、サマースクール含む)

	H23	H24	H25	H26	H27
日本(J)での受入	C0 K0	C5 K3	C19 K15	C11 K11	C12 K12
中国(C)での受入	J11 K0	J3 K5	J5 K6	J11 K5	J14 K5
韓国(K)での受入	C0 J11	C10 J18	C10 J7	C5 J11	C5 J15

注)H23~H25は実績、H26以降は計画。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 時間割に合わせた日本語コースの提供、インターンシップの機会の提供

通常授業の時間割と重ならないように独自の日本語授業を提供する。またインターンシップの機会を多く斡旋するため受入企業・機関の開拓を行う。

○ 受入学生への奨学金、派遣学生への渡航費を補助。Webによる情報発信。

受入学生には月額8万円の奨学金と宿舍の無償提供を行う。サマースクールをふくめ、海外派遣する学生の航空運賃を学生支援経費から補助する。また、キャンパスアジアのウェブサイト構築し、情報発信を行う。

<http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/campusasia/index.html>

■ 教育内容の可視化・成果の普及

シラバスの公開、学生アンケートなどの実施、合同委員会の設置

学生の履修方法などについては教職員に相談できるサポート体制を整える。修了要件やシラバスは、印刷物またはホームページなどで公開され、透明性、客観性を維持する。各科目の終了後には学生アンケートを行い、ファカルティ・ディベロップメントに役立てる。三大学の連携による合同の委員会がプロジェクトの運営にあたる。

大学の世界展開力強化事業 H26取組概要 東京大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプA-I CAMPUS Asia Pilot Program))

公共政策・国際関係分野におけるBESETOダブル・ディグリー・マスタープログラム

【プログラムの目的・養成する人材像】

東アジアの公共政策・国際関係分野における最高水準の英語による学位プログラムを創成することにより大学の世界競争力を強化し、多文化的な視点を持つ次世代のアジアのリーダーなどの優秀なグローバル人材を育成する。

【構想の概要】

北京大学、ソウル大学校、東京大学三大学(BESETO)の間でコンソーシアムを形成し、公共政策・国際関係分野における大学院レベルでの日中韓交流で英語での教育による交換留学または及びダブル・ディグリー(DD)を導入する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

単位の相互認定、成績管理、学位授与に至るプロセス

①相互で単位あたりの授業時間をもとに換算方法をルール化、②各大学の修了要件を比較、③コアコースの部分については、単位の読み替え先として対応する科目を事前に協議の上一覧にまとめる、④学生の一般的な履修モデルを提示する。

アカデミックカレンダーの違いを利用した集中講義、言語教育とインターンシップ

集中講義形式のサマースクールやそれぞれの言語を学習する機会の提供、インターンシップ先の紹介などを行う。

アカデミックカレンダーの違いを利用した集中講義、言語教育とインターンシップ

集中講義形式のサマースクールやそれぞれの言語を学習する機会の提供、インターンシップ先の紹介などを行う。

〈北京大学でのサマースクール2014〉



■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

〈ソウル大学校でのサマースクール2014〉

○ キャンパスアジアコース2期生の入学とダブル・ディグリー派遣・受入開始

東京、ソウル、北京の3大学での単位を必須とする「キャンパスアジアコース」の2期生が入学した。ソウル大学校より5名、北京大学より4名のダブル・ディグリー生を受け入れた。

○ ソウル大学校・北京大学でサマープログラムを実施

2014年8月、ソウル大学校および北京大学に東京大学在籍中の学生を派遣し、サマープログラムを実施した。



■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

キャンパスアジアコースに在籍する学生を中心に派遣する。①交換留学(留学期間2校で1年)またはDD(留学期間2校で1年半)、②DDでは北京大とソウル大のどちらかを選択した上で人数調整を行いながら派遣時期を決定する。毎年各校に5名ずつ派遣予定。数字は実人数(サマースクール含む)

○ 外国人留学生の受入れ

BESETOで連携しながら受入学生の選考を行う。DDでは1年間、交換留学では1学期間の受入を行うため、東大にDDを希望する学生が増えると受け入れ人数も増える。数字は実人数(交換留学、DD、サマースクール含む)

	H23	H24	H25	H26	H27
日本(J)での受入	C0 K0	C5 K3	C19 K15	C10 K5	C12 K12
中国(C)での受入	J12 K0	J3 K5	J5 K6	J25 K6	J14 K5
韓国(K)での受入	C0 J13	C10 J19	C10 J8	C5 J26	C5 J15

注)H23~H26は実績、H27は計画。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 時間割に合わせた日本語コースの提供、インターンシップの機会の提供

通常授業の時間割と重ならないように独自の日本語授業を提供する。またインターンシップの機会を多く斡旋するため受入企業・機関の開拓を行う。

○ 受入学生への奨学金、派遣学生への渡航費を補助。Webによる情報発信。

受入学生には月額8万円の奨学金と宿舍の無償提供を行う。サマースクールをふくめ、海外派遣する学生の航空運賃を学生支援経費から補助する。また、キャンパスアジアのウェブサイト構築し、情報発信を行う。

<http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/campusasia/index.html>

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開・成果の普及

留学生比率、英語による授業数の増加、シラバスの公開

構想開始前と比較して、留学生の対日本人比率は3倍以上、英語による授業数は20科目以上増加。学生の履修方法などについては、説明会を実施し教職員に相談できるサポート体制を整備。修了要件やシラバスは、印刷物またはホームページなどで公開され、透明性、客観性を維持する。

大学の世界展開力強化事業 H27取組概要 東京大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプAー I CAMPUS Asia Pilot Program))

公共政策・国際関係分野におけるBESETOダブル・ディグリー・マスタープログラム

【プログラムの目的・養成する人材像】

東アジアの公共政策・国際関係分野における英語による最高水準の学位プログラムを創成することにより大学の世界競争力を強化し、多文化的な視点を持つ次世代のアジアのリーダーなどの優秀なグローバル人材を育成する。

【構想の概要】

北京大学、ソウル大学校、東京大学三大学(BESETO)の間でコンソーシアムを形成し、公共政策・国際関係分野における大学院レベルでの日中韓交流で英語での教育による交換留学または及びダブル・ディグリー(DD)を導入する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ 単位の相互認定、成績管理、学位授与に至るプロセス

①相互で単位あたりの授業時間をもとに換算方法をルール化、②各大学の修了要件を比較、③コアコースの部分については、単位の読み替え先として対応する科目を事前に協議の上一覧にまとめる、④学生の一般的な履修モデルを提示する。

○ サマープログラム、言語教育やインターンシップを取り入れ

集中講義形式のサマープログラムやそれぞれの言語を学習する機会の提供、インターンシップ先の紹介などを行い、通常授業以外の分野で学業や実習の充実を図る。

○ 人材育成ニーズに合った教育内容

課題を適切に認識しリーダーシップを発揮できる政策担当者の養成に不可欠な、国際的視野で異なる文化や社会を複眼的に捉え理解するという力や国際的なコミュニケーションの手段として高度に英語能力を高める教育を行う。

(3か国の学生が参加したサマースクール)



■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

○ キャンパス・アジアサマースクールを実施

8月にサマースクールを国内で実施し、東京大学に在籍するキャンパスアジアプログラムの学生15名が参加した。自国の文化や歴史認識に関するディスカッションが繰り広げられ、相互理解を図った。

○ 北京大学とソウル大学校の間でのダブル・ディグリー締結へ

平成27年度に行われたBESETO Joint Meetingでは、北京大学とソウル大学校の間でのダブル・ディグリー実施に向けて交渉が始まり、平成28年度には両校で締結される予定である。

(3大学共同開催のシンポジウム)



■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

平成24年に派遣を開始し、交換留学を半年ずつ行い、平成25年よりダブル・ディグリー開始した。平成24年から平成27年まで、交換留学生35名、ダブル・ディグリー生10名を派遣し、その他短期プログラムも実施した。

○ 外国人留学生の受入れ

平成24年に受入を開始し、交換留学を半年ずつ行った。平成25年よりダブル・ディグリーも実施し、交換留学生30名、ダブル・ディグリー生25名を受け入れ、その他短期プログラムを実施した。

	H23	H24	H25	H26	H27
日本(J)での受入	C0 K0	C5 K3	C19 K15	C10 K5	C9 K7
中国(C)での受入	J12 K0	J3 K5	J5 K6	J24 K6	J6 K6
韓国(K)での受入	C0 J13	C7 J19	C10 J8	C9 J27	C10 J7

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 日本人学生の派遣のための環境整備

交換留学・ダブル・ディグリープログラムの担当スタッフが募集時から留学中、帰国後まで一貫して教員や先方大学とも連携をとってサポートした。留学前の学生には、単位の履修、認定の手続き等について説明を行い、帰国した学生と派遣前の学生との懇談会などを企画し学生同士での情報交換を促した。

○ 外国人学生の受入れのための環境整備

英語で対応可能なスタッフにより、学術面、渡航準備、渡日後のカウンセリング、交換留学やダブル・ディグリーの単位認定に関する相談など、きめ細かなサービスを提供した。

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況 情報の公開・成果の普及

○ 3大学共同開催のシンポジウム、学生によるトークイベントを実施

平成27年12月に3校共同開催のシンポジウムを東京大学で実施し、日英同時通訳を取り入れて学内外問わず一般に向けてキャンパス・アジアプログラムの成果を報告するとともに、周知活動を行った。また、キャンパス・アジアプログラムの学生を主体として、他大学の学生を巻き込んだ一般公開型のトークイベントを開催し、日中韓に関する理解を広める活動を行った。